

伊高生、頑張っています!

R.5.9.5(水)

南日本新聞

総文祭写真部門

「盛り上げよう」

実行委が湧水町表敬

7月29日～8月4日に県内各所で開かれる第47回全国高校総合文化祭の写真部門の実行委員が3月29日、会場の湧水町を訪問した。池上滝一町長らに大会広報用のジャンパーなどを贈り、協力を要請した。写真部

訪れたのは実行委員長の

森田優樹さん(伊集院高2年)と副委員長の元井愛沙さん(国分高2年)。同部

門は7月31日に同町の霧島アートの森や鹿児島市で撮影会を行う。アートの森に



は全国の生徒約200人が訪れる予定。

受け入れや広報で協力を要請された池上町長は「連携して一緒に盛り上げよう」と快諾。委員の2人は「全国の高校生との力メラを通じた出会いが楽しみ。自然が豊かで食べ物もおいしい鹿児島の魅力が伝われば」と話した。文芸部門の実行委員2人も3月29日、

学校、学年は取材時です

始良市役所を表敬訪問した。(中村直人)

R.5.3.29(金) 発行

東市東地域学生会会報

私の相棒

上市来地区 伊集院高校二年

山之内 翔 氏

私には幼稚園からの相棒がいる。それは、ピアノだ。習っていたのは幼稚園から中三までであるが、習いをやめた今でも家にピアノがあるため趣味で弾いている。ピアノを習った理由としては、姉がピアノをしていて羨ましいと思い始めたのがきっかけだった。



最初は、楽譜も読めず指の使い方がぐちゃぐちゃであり、周りの人たちに置いていかれるのが分かった。また、楽譜も読めるようになり指の使い方に慣れていくとさらに壁がある。それは、左手の使用と和音やシャープ、フラットというように難しい曲に挑めば挑むほど色々出てきて、

頭と体が全然ついていけないことだ。その頃は、実力のなさを知り自信を無くし、ピアノをやめようとするまで追い詰められた。しかし、習い事の先生から「本気にならなくても好きな曲が自分で弾ける、これもピアノの醍醐味と言えよ。」と言われ、好きな曲の楽譜を調べたら自分のレベルにあった楽譜がいくつも出てきた。そこから、ピアノの楽しさに気づくことができた。



今では、ストレスが溜まった時や暇な時に弾いていて、ピアノを習って良かったと思え、いつのまにかピアノは私の相棒となっていた。